

臨時農業生産情報

(少雨に対する技術対策)

令和元年8月8日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

青森地方気象台発表（令和元年8月8日11時15分）「少雨に関する青森県気象情報第2号」によると、青森県では、7月上旬から降水量の少ない状態が続いており、この状態は、今後10日間程度は続く見込みです。

今後の気象情報に注意し、次の事項に留意して、農作物の適正な管理に努めてください。

1 水 稲

- (1) 出穂後10日間は、稲が最も水を必要とする時期になるので、5～6cmの水深を保つ。用水が不足している場合でも、田面が乾かない程度に入水し、可能な限り湿った状態を保つ。
- (2) 水不足が予想される地域では、輪番取水制の実施等により、計画的な用水利用に努める。また、排水路の水が再利用可能な地域では、必要に応じてポンプ揚水等を行い、効率的な水利用に努める。
- (3) 斑点米カメムシ類の適期防除を徹底する。

2 畑作・野菜・花き

- (1) 転作大豆では、開花期から登熟期の乾燥は減収につながるので、うね間かん水を行う。ただし、排水不良ほ場では行わない。
- (2) トマトやピーマンでは、生育に応じた追肥・かん水を行い、草勢を維持する。また、乾燥により石灰欠乏が心配されるので、必要に応じて葉面散布を行う。
- (3) 秋野菜や花きなどの種や定植はできるだけ夕方に行う。また、極端に乾燥しているほ場では、かん水後に行うか降雨を待って行う。
- (4) 乾燥が続くと、ハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類等の発生が多くなるので、早期発見、早期防除に努める。

3 りんご等果樹

- (1) 苗木や若木は乾燥の影響を受けやすいので、園地の状況を確認し、乾燥している場合は1m²当たり20リットル程度をかん水する。
- (2) 草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草をする。
- (3) 収穫を迎えている中生種のももは、食味の低下を避けるためかん水しない。

4 飼料作物

- (1) 草地の地温上昇や土壌の乾燥を防ぐため、
 ア 牧草の刈取りは、10～15cm程度の高刈りとする。
 イ 放牧地では、過放牧を避ける。
- (2) 施肥は降雨を待って行う。
- (3) 干ばつ時には害虫が多発することもあるので、草地等の巡回により早期発見・早期防除に努める。



報道機関用提供資料	
担当課 担当者	(水稻) 農産園芸課稲作振興グループ 総括主幹 腰巡好之 (畑作・野菜・花き) 農産園芸課野菜・畑作物振興グループ 総括主幹 大和山真一 (りんご等果樹) りんご果樹課生産振興グループ 総括主幹 小松弘明 (飼料作物) 畜産課経営支援グループ 総括主幹 山田健司
電話番号	(水稻) 直通 017-734-9480、内線 5073 (畑作・野菜・花き) 直通 017-734-9481、内線 5076 (りんご等果樹) 直通 017-734-9492、内線 5092 (飼料作物) 直通 017-734-9496、内線 4814
報道監	農林水産部 次長(農商工連携推進監) 船水浩人 内線 4967

【おしらせ】

青森県では、臨時農業生産情報をパソコンやスマートフォンにメール配信するサービスを実施しています。青森県農業情報のホームページ「アップルネット」からお申し込み下さい。